

ミズナ

京都原産で寒さに比較的強く、野菜が不足しがちな冬場に収穫できることもあり、関西では古くから親しまれてきた野菜のひとつ。繊維質が少なく、特有のシャキシャキ感が楽しめることからサラダなど生食用の野菜としても人気。



作型 耐寒性はかなり強い。暑さには弱いので早まきしすぎない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋 植 え	■ ■ ■								○ △ ■ ■				白糸の滝、白鯨 白茎千筋京水菜(早生、中生、晩生)

○：種まき △：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 a当たり	
醗酵鶏糞	30kg
畝立時施用	

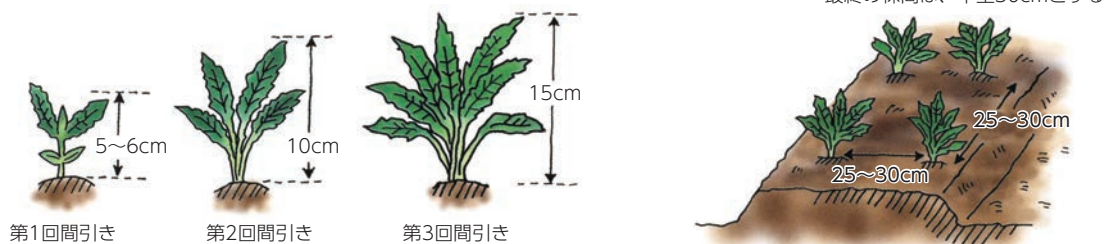
- ・畝幅100~120cm
- ・株間25~30cm (2条間30~40cm)

種まき (60~80ml準備する)

- ・条間30cmで2列のまき溝をつくる。
- ・まき溝は幅15cm、深さ4~5cmを目安とする。
- ・薄まきをする。(種子間隔は4~5cm)
- ・覆土の厚さは0.5~1.0cm
- ・まき床が乾燥しないよう切わらをする。
- ・セルトレーに種まきした場合、本葉3~4枚で定植する。(株間25~30cm 条間30~40cm)

間引き

- ・葉がひどくちぢみ、黄化して育ちの悪いものから間引く。
 - ・第1回 本葉2~3枚の頃 (草丈5~6cm)
 - ・第2回 本葉4~5枚の頃 (草丈10cm前後)
 - ・第3回 本葉7~8枚の頃 (草丈15cm前後)
- 最終の間引きの株間は早出で25cm、晩生30cmを目安とする。
- 追肥は第2回と第3回間引き後に野菜専用肥料を4~5kg/a施用する。



防除

病害虫名	耕種防除	薬剤防除
アブラムシ	寒冷紗、透明不織布等のべたがけをする	スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫3日前まで 2回以内
ヨトウムシ		

収穫

- ・早生種は耐寒性が劣るので、年内をめどに収穫する。
- ・晩生種は3月頃まで収穫することができる。(パスライト等のべたがけをする)

ハクサイ

一年中出荷されているハクサイの旬は、お鍋がおいしくなる晩秋から冬にかけて。今では食卓になくってはならない野菜ですが、結球したハクサイが全国に広まったのは大正から昭和の初めと、まだ新しい野菜です。



作型 10月中旬～1月中旬頃まで計画的に収穫できるよう、早生と中晩生品種を組み合わせる。害虫は、初期防除を徹底する。結球開始期には、乾燥しないようにする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋 ま き									○		■ ■ ■ ■		黄ごころ・金将・錦秋

○：種まき ■ ■ ■ ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 a当たり	
MBようりん	8kg
野菜専用肥料	10kg
発酵鶏糞	30kg
畝立時施用	

- 2条千鳥植え：畝幅120～150cm
- 株間40～45cm(条間45cm)
- 種子は1ヶ所に3～4粒まき(重ならないように)薄く(5mm)覆土後、鎮圧する。
- 欠株の補植に、ポットなどで育苗しておくといよ。

間引き・追肥・土寄せ

- 本葉1～2枚時：間引いて2～3本立ちとする。
- 本葉5～6枚時：間引いて1本立ちとし、その後追肥(野菜専用肥料5～6kg/a)し、軽く土寄せを行う。
- 結球開始時：追肥する。(野菜専用肥料6～8kg/a)



防除

病害虫名	耕種防除	薬剤防除
コナガ アオムシ ヨトウムシ	幼虫の捕殺 防虫網を張る 早期に発見し、幼虫の分散前に捕殺する	ジェイエース水溶剤 1,500倍 30日前まで 1回
べと病	通風をよくする 発病葉を取り除く	プロポーズ顆粒水溶剤 1,000倍 7日前まで 2回

寒さの防止

- 霜の被害を受けないように、結球が終わった頃、ビニールひもまたは、わらなどで外葉を包み込むように縛る。



わらやビニールひもで結束する。結束が早いと生育が悪い。おそいと凍害を受ける。

収穫

- 結球の頭を手で押さえて、葉に緩みがなく固くしまった感じであれば収穫。